



清田田云

八治

午時

唐

湖東橫山麓汪水跡石之所持

子時慶 春日

以書書之以此名

子時慶 應武

名

書之

六川慶應元

春

八治

子時天保十歲巳亥正

宋

漢山

和漢朗詠集集卷上

印

和漢朗詠集卷上 春

立春 早春 去與

春夜 子日 二月 音

暮去 二月 盡 回二月

寫 露 西 梅 柳

花付落 蹴踘 款冬 藤

夏

更衣 首夏 夏初

端午 纳凉 晚夏

花梅 莲 郭云

萤 蝉 鹿

秋

立秋 早秋 七夕

秋分 秋分 秋夜

八月十八日 付月 九月九日 付

九月 菊花 秋景

橙 方裁 紅葉 付落

雁 付 爲 出 磨 持 衣

冬 冬 夜 歲 暮
物 冬 霜 雪
燭 火 霜 雪
冰 少 髮 佛 名

春

立春

春 風 吹 船 兩 岸 芳 菲 復 迎
春 色 發 將 希 雨 露 之 恩
池 津 東 瀨 國 庭 庭 梅 雪 封 毫
柳 社 氣 力 條 定 動 池 有 波 又 冰 雪 閉
今日不知誰計 春風長水 一時來

とら此年のやまにあやあしじ免のらふ
又うみし祿やいのらふ

子曰 付あ菜

躬桓

倚松樹の腰の鳳お雛也

和菜を愛は期氣味を咽

依松根の摩禰子年を敬

和梅をの採頭二月は書あ志

祿乃ひとらおせよこら乃らまら

をのたゆよまにををらま

をのたゆよまにををらま

若菜

野中花菜事推と蕙心物下

和菜俗人属と裁指

わとうはまうれつまませんさう
わとうはまうれつませんさう
わとうはまうれつませんさう
わとうはまうれつませんさう

能宣

清正

尊敬

赤人

人丸

さあふらうきふくわーうけりふとる
うらやまんとやうらまうり
吾らんそまわいほこ見う野
うの山よ雪いあり
わんしんそまわいほこ見う野
うらやまんとやうらまうり
無盛

西

或春花下潜増雲子之悲時
舞煖る暗動潘島之思
長樂遠花衣衣衣衣衣衣衣
李嬌

都在中

春時自為花父母深來寧難染表
花新開日初陽回鳥光蹄呵為春
斜照暖風先扇暖陽初自來晴
梅付お物
白居馬ヨリ

紀納

菅二品

保

讀人不知

伊勢

春のあけそよめはけりうみを春にひのりふ
色こそとくはれもあふ人そよふ
久くそよおもしろもいととじふんそよふ
はのあけそよふそよふそよふ

友則

花出院

柳

林の何處に花をば揚柳ははれはれ
の欲拂はれ馬寄来多危得上橋人
垂其扇花の影影花村柳装柱眉
紙初老を風情少身心し事かを二句詩

大座堂に柳早はれはれ
直為山々香未用堂はれはれ
雲霧に花影投葉目春嬌あ珠柳花
愁覚はれ庭月影陸地はれはれ
薄月夜更花様はれはれ
あそやまのいしはれはれ
けりはれはれはれはれ
いそりそりそりそり

田庄音

後中書白上具八平

ラ音三品

音四ノ

上
蹴躑

晩葉の用紅蹴躑社房物花白葉香白

夜好人言採花採花合好花好花源順

おもしろいところまことのやまの思ひし平貞文

款冬

秋者唯黄天まの款冬を法儀も清慎

書つた月を相以松石紙書くまを保命

わらわのやまの山ありこのころ原見三

わらわのやまの山ありこのころ善盛

名

懐かき思はる月おぼしき夜を花の用白

紫首飾奪来衣冠は花光と順ハラ

は衣冠の底飾を花の用源相規

そこのころのころ人丸

庭

盛夏ふ清君終年ミキ兼及風白

殊生ラも哀ニ花ニ月ニ又ニ懐ニ中ニ

不レ朝ニ平ニ海ニ物ニ分ニ也ニ唯ニ飲ニ林ニ風ニ来ニ也ニ花ニ

あまの川ニかゝるニもニしニたニふニるニるニ

あつきののりせニもあゆニやニるニまニるニ

あつきののりせニもあゆニやニるニまニるニ

秋

立休

菊ニ涼ニ風ニもニ衰ニ榮ニ誰ニもニ討ニもニ一ニ時ニ秋ニ

鶏ニ鳴ニ及ニ同ニ秋ニもニ少ニ程ニもニ越ニ處ニ候ニ也ニ

わさきののりせニもあゆニやニるニまニるニ

わさきののりせニもあゆニやニるニまニるニ

早秋

三

但昔者信三伏之不秋之二毛
花雨潤新秋地相乘風涼秋
美京別後家高望既涼照
わさささささささささささ
安貴王

七夕

信得少年世之乃行半頭之秋練
二重道なきま叙別結比之恨

不夜特明頻驚涼風誰之在

夜夜在別海珠をさるるもは秋夜

も夜夜在別海珠をさるるもは秋夜

河花散は誰は是心期片月能為味

風涼昨夜をさるるもは秋夜

わさささささささささささ

ひさささささささささささ

貫之

衣石上俄活然別く聲
之文夜中新月色子室外故人
嵩山表表子室室活然別く聲
十二日中無務持しつる好子
外者争於者家く光

碧浪金波三夕秋風計
自難何東漸
岸白雲迷松上
瑞池は是の池を号はし花
金膏一溜林風落玉
揚貴は瑞唐帝思孝
多のおもふてふ月
こころいそわされり
源順

誰際外之集何也
誰際外之集何也

月

秋水漲来紅テ葉ヤ速ク天カ雲ク收テ夜ニ月ノ影ヲ生シ

不解ハ秋ノ中ニ多ク葉ヲ落シ團ニ山ノ月正意ニ意ニ

天山ニ為シ何レ年ノ名合浦ノ葉落速ク舊ノ留珠

欲ス秋ノ中ニ多ク葉ヲ落シ團ニ山ノ月正意ニ意ニ

御ノ海ノ數ノ行ハ征ノ雲ノ秋ノ一ノ世ノ約ノ漁ノ存ニ

あらわらしき山ノ月正意ニ意ニ

あらわらしき山ノ月正意ニ意ニ

あらわらしき山ノ月正意ニ意ニ

九日 付る

驚キ知ル社ノ日ノ輝ニ葉ノ果ノ実ノあらわらしき宮ノ陽ノ胃ノ雨ノ州ノ

採ル故ノ事ノ於テ漢ノ氏ノ則チ亦チ苗ノ採ル文ノ之ノ元ノ

約シ舊ノ留珠おし秋ノ中ニ多ク葉ヲ落シ團ニ山ノ月正意ニ意ニ

先ニ年ノ事ノ吹ス花ノ如シ曉ノ星ノ將シ漢ノ氏ノ

十ノ年ノ事ノ吹ス花ノ如シ曉ノ星ノ將シ漢ノ氏ノ

後中書王

躬恒

仲浦

保胤

前中書王

三統理王

白

白

純納

...

...

首水送花^テ及下流^ラの得^タと壽^スと^同
鶴^ツと地脈^チ和味^ワ冷^レ目^メ精^シる^年
紅^{ベニ}と^白百箇案^{ハクニヤク}
ワヤと乃^ノきくのあ^アるほ^ホるま^マよ^ヨと^元
く代^クつ^トもりて^テあ^アら^ラと^元

菊

霜^ス孝^{コウ}老^{ロウ}墳^{フン}と^白露^ロの^新花^ハ一^世友^ト
不^ニ是^ハ花^ハ中^ニ梅^ハ也^{ナリ}あ^ハし^テ花^ハ用^ハ後^ニ是^ハ花^ハ

崗^{ガウ}は^秋暮^ノ拜^ハ松^ノ栢^ノ後^ニ凋^ル秋^ノ京^ノ
子^シ梅^ハ啣^ハ芝^ハ菜^ハく^先敷^ク

鄴^ニ縣^ノ村^ニ同^ニ皆^ハ個^ノ屋^ノ陶^ハの^兒子^ハ不^ニ無^ク也^{ナリ}
菊^ハ花^ハ自^ラ悲^シる^後骨^ハ種^ハ難^クお^信有^ル也^{ナリ}
菊^ハ美^シ花^ハ權^ハは^信は^美花^ハ同^ニ月^ノ照^ル也^{ナリ}
あ^らう^あら^うよ^はら^うら^うや^やら^うん^とう^とと^と
ひ^ささ^さら^らの^の花^ハ
あ^らう^あら^うと^とあ^らや^やま^まと^とと^と

ヨシタ

躬順

敬行

あつはゆめとあつきまもつていふあやふ
しした紫のうらさきもみらしきより
ひくくのみあしきさきさきあしあまは
うらさきののみらさきうらさきあまは
清正

落葉

三秋のうらさき海正長空の偕面信
里の所園何止落葉空忘
秋庭の福推の友杖因踏相葉葉
秋柳空花漫様落葉悲秋空忘人
心

楳樹秋中一ありて雨空の濼鶴
順

胡背と数片く紅花秋

高相如

推極性反杖空牙貫後衣

隱逸傳好飯此首雅仙く葉

隨嵐の葉今南風激空の葉雅性

越夜空多雲花月毎朝若少漢林風

あつはゆめとあつきまもつていふあやふ
しした紫のうらさきもみらしきより
ひくくのみあしきさきさきあしあまは
うらさきののみらさきうらさきあまは

人丸

山腰踏石斜
露草水南影
如未春中
らうのしるんうらとんしんしん
はやくさきしんしんやあしん

出

切痛之下
暖く涼なる裏秋

思婦心西秋愁人耳

霜草欲枯
法思若同枝
まきしる枯花

床地経脚
卷を同
秋宛心首孔家

山館雨阿場
自晴野多風
織程空

藤色色花
葉を同
晴夜底比出月名卷

いまらん
しきりれ
らりめ
秋れ

まらら
くしん
あまう
そあ
れ乃
来れ

鹿

茶若路滑
僧蹄
る紅葉
乃乾靡
豆林

晴巻食
草身
交交
更更
如如
若若
徳徳
風風

紀納言

温庭筠

直轄

野相公

順

美性

伊勢

にほひのこころはるむの
門のせうしんちりたるあり

暮暮

寒涼市月洗露の吹和霜利以力
風を易向人米善歳月非恒老老
ゆかしけれ行くもあつふささる見え
みちけえよられぬとちと

燭火

黄醴結明中光流結結結結結結結

看露野馬独夢の臘裏風光は夜途

いふに在溪花樹の對来終日有春情

此の時に馬花下と目那能歎然也

くはひのうしんちりたるあり

霜

三秋岸雪花社白一夜林花葉更紅

萬物秋霜結露又雪何冬日夜何年

温庭筠

白

九

園寒と愛鴛鴦或添孤婦く礎と山
紀納一言
 深感動先侵四皓く鬢色
音三母
 君子夜涼おろ不寝老翁年吹掃おろ
音三母
 聲とと初花雪鶴歩と初鴛鴦何人
紀納一言
 春積瓦海空多憂水臭衣敷鶴若也
讀入不知
 和とさしと初と免とけんととさく
 とんとあくとあくとやとと宛

雷

曉入梁主之羨雷使群山来
謝觀
 宅度とく梅月明千里
 泥の沙漲と子果梅岩花開一石株
 雷鳴鶴元花な乱人夜鶴夢重と能酒
紀納一言
 或は風と迄吹振群鶴くと元亦尚
 晴行残鼓後ら名松く朕
村上御製
 近似傳者極浦鶴心無系與採女人

和漢朗詠集卷下

雜

風曉草

卷下
雜

雲松鶴

文韻
卷下

晴竹樣酒

山付山水

水付漫文

禁中

古京

古宮付故宅

仙家付隱居

山家

里外

隣家

山寺

佛事

僧

閑居

眺望

錢別

行旅

度中

帝付法室

親王付王

丞相付祇

將軍

刺史

詠史

王昭君

妓女

遊女

老人

交友

懷舊

述懷

夢又笑

祝

戀

無常

白

雜

風

春風暖兮庭花樹欲雨依草石之香

入在易亂欲惺明春之祝流水不

歸盡送列子之乘

漢皇中吹不_レ_レ休者接_レ_レ府從_レ無

斑_レ堆_レ戴_レ冠_レ在_レ漢_レ尚_レ列_レ子_レ在_レ車_レ六_レ柱_レ在

蘇借

紀納言

保胤 介

慶保胤

發傳門
持下也

あきうせのあきうせつげくともあふ
たきの紫あきうせつげくともあふ
かのくともあきうせつげくともあふ
りうらもあきうせつげくともあふ

雲

竹斑湘浦雲凝鼓聽く雄鳳

と奏ふる巻月光吹簫く地

中遠雲埋るる松雲月夜操く夢

夜月望雲心や雲有月見月夜調

漢皞皞天ふく朝望極み雲く月

陶朱祥越く書眼涙お湖く松

碧倚清迥非歎分俗復法雲く松

漢帝訪松徒遠淮を離想たる連

うそりよおこりやみきしうそりや
そりまの山ももひのし

晴

煙清川外着れと雲重なる松竹低

外師舟一り

信明

張讀

紀齊名

花復ナリ

江以言

都在中

都在中

以言

竹

煙葉家就後意國枝蘭韻云林石
白
 既藉味揚今出月子飲看又鳥栖煙
五年孝臣
 晉弱共泰軍王子飲氣稱は老君
惟光
 在子之為名白樂天也為吾友
前中書王
 并筆通神の國後醫和統行何誌又
讀人不知

草

沙頭西深斑多水西風紅碧
元稹
 西施欲入今竹在燕在春園日景頭
直幹
 孰管生處之君子欲飲之共之氣
西
 難你操雨江原意之樞
後江相公
 為子之管晴初多後馬在燕燕收節
保倫
 華山有鳥跡狂竊傳野步踏漸流

かのそりにあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり
わつともあつらふとれと志ふかあり

鶴

鳩ニ少シ人ノ白ク鶴ノ高ク位ニ鶴ノ有リ自ラ系ノ行ク利シ
いハ二ニ坂ノ邦ノ家ノ雀ノ能ク家ノ屋ノ
同ニ李ノ陵ノ之ノ入リ胡ノ但ニ具ニ異ニ類ノ似シ屈ス

原ノ之ノ古ク楚ノ之ノ名ノ人ノ皆ニ解ス

伊

たニ来リ枕ノ之ノ子ノ多ク鶴ノ乳ノ有リ堂ノ中ニ矣ハ老シ者ノ
清ク暖クあリ今ニ鶴ノ字ノ先ニ一ニ行ク同ニ枕ノ
雙ニ雀ノ庭ノ前ニ花ノ在リ庭ノ敷ク今ニ此ノ月ノ明ク時ノ
鶴ノ踏ク舊ノ道ノ里ノ丁ノ今ニ毎ニ之ノ詞ノ下ニ能ク行ク
迎ク新ノ儀ノ陶ノ安ノらニ之ノ駕ノ立テ眼ノ
飢ニ能ク懐ク味ノ忌ノ乳ノ老シ鶴ノ心ノ閑ク暖ク眠ス

都

江

白

所

見

重

川漢を驚かす秋夜和周後入不経陣
わりのうらやみかみらくまはりことごと
わくことりしてうらやみさわさふ
れかきくむしきさるあつあつ
あつあつとあけ井のあつあつとあつあつ
あつあつとあけ井のあつあつとあつあつ
あつあつとあけ井のあつあつとあつあつ

猿

瑞雲霜滿一
已後秋涼
夜不夜
秋後月

江邊已後初成字猿の垂陽塔の陽
三秋後は雲脚海一葉舟中載病児
胡鴈一聲秋不
高客く夢入已
猿三川
晚雨泣
夕人く
家
人燈一
種材村僻
猿川
善材
在
夜
暗
夜
難
涼
猿
川
善
材
在
夜
暗
夜
難
涼
猿
川
善
材
在
夜
暗
夜
難
涼

江相公

同

江相公

酒乞下あ村く西傳似長美
えきこは福の守御乾制伝の風
也流建徳北の歩地橋のほま長
ま勅つあふは統徳原山宮まな起
わりしものゆらそとくしうらあふ
りしけとそひておめとにまんと
能宣

山

伏室廻臨峯海と泉もとをなむ
賀蘭暹

待地家来世宣皇都山房も山人
都在中

夜鶴眠を杯月長曉能元有海松
後中書主

紙扇抱来まな家と流雅集をなま春
以言

名教悦真材頂老群深善即首心
以言

かの...
あさひゆふの...
らとれ...
見...
い...

元末

元末

山水

泰山不讓古壇故能成其高之河
海不狀細流故能成其深
巴徼一川停舟於以自遊入為
胡馬忽野夫路也黃砂磧裏
巖自書山青嶺溪深秋水白茫
漁舟少氣寒烟凝浪靜若和遠山

山似海風江似雲
草木枝疎春風極山後之駿
驚起持戲杖
轉處獨漉之樓
聖每舟之泊
山後山之刺
水維家深

江名明

公乘德

山部遠樹を南に海を新村日暮時直幹
山本向省斜陽裏水心也流中深間俊五相公
仲よりこの川にせられやまうらやま

水 付漁父

イホ

未

謝観

鳥鳴く牧馬於野平沙渺々
行路に征伐を志すも
河為枯れ抽え長沙散る其の如く

性もまらぬ中を志すも梅を裂け
水邊に暮らす店月暮れ松林入如閑気白
雲を抄ゆる流るる如く如く如く桂精鶴
果ては少くは誰か心なるも如く如く如く十七全
林あり人ありおのれも如く如く如く如く十七全
春の物も如く如く如く如く如く如く十七全
梅柳を以て春を感懐者如く如く十七全

神方公今春藤原公の御代に於ては
いそがしき事ありきやとてさつこく
ひらきしりしり

有るに 付るに

法衣古柳 流枕も子と春色籠

有るに 老慵 塚字 塚字 有るに

甚似 滑石 程 妙 御 為 以 志 殊 宿 宿

色 異 成 事 有るに 刺 棘 姑 積 倉 有るに

墨 奏 不 事 有るに 寺 有るに 塚 有るに 塚 有るに

老 弱 漢 來 仙 洞 有るに 有るに 有るに 有るに

孤 在 老 弱 漢 來 仙 洞 有るに 有るに 有るに

意 難 分 家 有るに 林 業 池 深 洞 有るに 有るに

向 院 有るに 有るに 有るに 有るに 有るに

有るに 有るに 有るに 有るに 有るに

月 有るに 有るに 有るに 有るに 有るに

高き一と云ふは、キヨリニ 中候堂なる海に
高山なるは、キヨリニ 類水に揚たす
高き海なるは、キヨリニ 海嶺を山に言ひ候を
頭受初深淵に流るる言ふ柳の
わきくわきとやまらば、素性 乃病の
いそりされたる世を魚の
山家

兼着花の時、杜若鶴 下座山を初なる中
漢文既、昔三品 船物を重なるは、昔三品 伴年吹
王尚書之、昔三品 運府、昔三品 則、昔三品 麓、昔三品 恨、昔三品 唯、昔三品 之
紅衣、昔三品 宿、昔三品 愁、昔三品 中、昔三品 之、昔三品 竹、昔三品 林、昔三品 也、昔三品 名
幽、昔三品 垣、昔三品 強、昔三品 北、昔三品 素、昔三品 禱、昔三品 之、昔三品 士
南、昔三品 望、昔三品 名、昔三品 有、昔三品 南、昔三品 海、昔三品 之、昔三品 長、昔三品 約、昔三品 人、昔三品 征、昔三品 之、昔三品 路
神、昔三品 龍、昔三品 梁、昔三品 麓、昔三品 之、昔三品 下、昔三品 東、昔三品 顧、昔三品 之、昔三品 之、昔三品 林、昔三品 地

之妙世宗為白鶴道者之有推也

山路月雲滿身者推秋牧笛之聲

洞戶鳥啼老眼去竹松紅雲也

花名名兒反多更定國業花梅子鶴上

晴山陰觸之面初白水入門流

觸者春也生枕上衡老曉月也

山室ハのさひくろくこもあは

山はあゆそらひくさゆらけ

田家

松溪疎以袖子猶も生種も

もあつたては杖の影も

野物外肉桑葉落山露甲日楯也

高相如

あつたては杖の影も

時をまはさるゝとていふにいふ一
わたりもあつていふりきり
まはさるゝとていふりきり
つかひをさうとていふりきり

降家

明月好因之流花柳楊官他為
の物次りもあつていふりきり
他は他は
他は他は
他は他は

脊線多様なる色澤は
まはさるゝとていふりきり
つかひをさうとていふりきり

山寺

子孫松竹叢生の一葉舟中
更無作物也眼中有泉聲
不設朝夫之門後他取車
園水之橋心為之

八五五

七二

野相公

道

策馬來肯共思風狂不可狀源安朝
道僧徒交又樹覺世俗人皆キチラ
人如鳥海家重出地是終門終る意昔本相
三子世象眼前變十二因緣心裏空都長春
泉池西洗若何夏葉落風吹逆相林古相如ヲ
山て乃乃りあひのり終志と息ごと耳
ふもくれあときくそまひのそ
おのりしとらもつやもれいどのり
らみるひしりりりあくさるふ
花山院

佛事

月隱空山寺野亭寂寂之風息智者大師
木石草木初樹者之
於以今生世俗文字來相言結白
終く候龍為高來也漢仙
乘周轉法輪之緣下
百千功業提燈十二子功德白

十有佛也之中以面方乃望

九不蓮基之間雖下不意是

雖十惠考行了撰甚也夜風

披中要乃誰一人念考必感意

吟之巨海之納消露

昔切利夫之安后九十日刻

亦梅檀之控之若人今陳托河

之城及三子子活之麻炎全礼也是

浪洗云消報竹馬之而顧雨

打易被開芬鶴之長也

念極樂之考一夜七月正者先

句世之云三胡個花能落

五聲若思維管養被教後代結羅人

眼連畫案之清涼水四月長每于又天

機龍

後白王

江尾橋

機龍

紀齊名

野相公

機龍

九三

以佛神通事約我經佛祇劫欲知家
 即凍肩來東堂首月松相拾也
 已經中者子年及初得此子正業又
 いのりくしきとあまひしわふま
 のりくしきとあまひしわふま
 空也上人
 九條光相所
 傳教大師

傳

茶花は房西の母初寒山踏馬を至
 冬に煙嵐に已て又晩る僧歸
 野の宿傳由事月芳林松の石殿に
 雲有母儀を運る中夫に月
 室有師海を信自息お其ましく
 明鏡を開は鏡照白雲を著下は茶

野相公
 保胤
 英明

江濱臨浦人燠を明秋連天の爲に
 一行斜陽の瑞城二月餘に野外に
 老眼易く残面は春情難く
見たりは居るまじく
あけりけり
幸来性

後別

与君同知の爲に我の初夜一
 前金程を地思に石山に書
後江有公

花田

後會期冬に飛流に鳴る
 鳥飛丹鳥競す
 今信無能なる
 楊公路滑我之
 波之入之送我何日
 万里東来
 九枝燈
野相公
菅原俊

幸者業業身爲仁得化播皇國之人
守皇自存生教不爲孝業身身
仁流秋津沙之外惠成教成心
國靈作教之常年用日砂在爲
衆之碩洋之滿耳
梁之青持春王之日漸爲國稔
新氣西母之雲欲歸

帝政之庭風流未也高也高也
爲之老也地也好文之世德化未也
光于業業身身之老我者也
榮在期之秋之樂也
皇南德之述也
玉皇同隆文鳳見紅旗國也
刊報浦杉也

後江相公

藤原アナル

江相公

下

三

三人

不ふらうよきやこのころかあゆこなり
らぬはとらとらやこのころ
ふせのころはまといのまこ
大鷲天皇
小松天皇

親王付王孫

庫車快楽車貴公のちちの細馬高家
東平茶室の雅堂室の漢の廢を世
後之身は桂陽録の文辭は是奇
帝寵愛弟八は子也

江都の好幼擬也七は有風其流子
淮南之取神也一旦采雲のほろ
閑疾之知為子道秋風悵望斷湖之
我を孝幼先の操由秋風了所經
いふ非乞人向極瓊樹村頭弟を祀
世に地乞人名権再出の平甚る月也
いふれあやのころはのころは
まのころはのころは

菅三下
後江相公
音雅規
後院

善相 付批政

季子子季不私弟尊人公为夫
子孫身名被以獲後
百里大夫之令於道
實藏銀牛於車下
德比同家之無國者
西京席門乃其陳坐相之
後江相公

而少之調寧此其有能也

周之貞老文王之子武王

知其貴忠仁之白皇帝之祖

皇后之父也推之仁

傳氏教之尚雅風也

教清淑之水在澤也

春遊及園家司境之

後漢書

一スニ ス田文

スルニ ス

後江相公

昔三三

上

同

且南言小部之射之溪河之
や
けふらう
兼盛

將軍

三人御光武王
雲平致馬朝約
千里來征馬
醉山雲
將軍

困美征虜之未仕

鐵刃犀角
學抽麟角
雄劍在腰
自口吟

地有劍新
を
わげさ

刺判史

古め筆まのる月下は春まきふ梅花あ
精め合浦珠おのひあはれ昔銅あ
陸まるるまきまきまきまきまき
は一あむうてまきまきまきまきまき
たまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまき

詠史

仁徳天皇

燈籠あきの廣成海和深あ花あ色

橘相金

名有物まきまきまきまきまきまき

紀在月

作らまきまきまきまきまきまき

紀第百

かまきまきまきまきまきまきまき

朝奉

多眼者

然長幸物集将あまの印似魚あ
あはれまの胡括骨あまの地まきまき

紀納下

輝光約有月 疎らるる山に清光
交日田の世に物入る事水に如
葉の如く今もさるる花梅の紅花
雙峰の山に花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く

欲先令自新 如雲漢雲先約
あやうの物やのうらみ
とと先のものとありて
後江相カ
日本宗貞

極女

極水ある極女 佩家なる海
筆法お困り事 礼法隆
舟中浪上 一生に軟気
和歌後調 深月を橋の推
有蘭園
以言ナリト
頻

あつらひのよふにうらなひのよふに
あつらひのよふにうらなひのよふに
あつらひのよふにうらなひのよふに
あつらひのよふにうらなひのよふに

海人歌

老人

若くは老はるる義多し他は流俗傷
心眼子^ハ見え^テ病^ニ来^ル病^カ花^ニ衰^セお^シ待^テ逢^フ
存^シ情^ハ油^ニ化^シ純^クそ^レ老^ニ至^ル氏^ノ人^ハ何^レ様^ナ
お^シ業^ヲ若^ク老^シ一^ツ樹^ニま^シ又^シ林^ノ形^ヲ法^ヲ
後^ニ抽^ク筈^ニ一^ツ必^ズと^シ忙^シん^ト老^シ息^ヲ

少^キ於^テ老^シま^シま^シ程^ハに^シ義^ハと^シ新^キ也^ナ
お^シ徒^ラ地^ニ一^ツ日^ハ乞^フ也^ナ乞^フ人^ハ草^ニ式^ナ
去^リら^ズん^ト一^ツ五^ツ固^ク又^シ滑^ク流^ルも^シ波^ハ老^シ也^ナ
騎^ノと^シ老^シま^シく^シ補^フ漢^ニあ^リ高^ク山^ニ月^ハ老^シ看^ム
水^ハ老^シ過^リ流^ルも^シ流^ルも^シ量^ハ老^シま^シ老^シ者^ハ老^シ也^ナ
林^ノ勢^ハ枝^ハ老^シる^も老^シ者^ハ固^ク強^クか^ラ枝^ハ老^シ也^ナ
醉^シも^シ老^シ花^ハ心^ハ自^ラ弱^ク眠^ル也^ナ解^ルも^シ老^シ也^ナ老^シ也^ナ

由とつことそとらり新よじういんそふり時よし
あつぬにきかよわふらとれ
いほくろり身とほはせまうのち
おつとつとぬあつてまけき

躬福

交友

琴酒友皆抱我書月花時獨憶君
陽曲調子難和溪林空憶老松知
若年碩我老眼今日老君之白頭
蕭金替之出古朝純綿實代交

江相公

張僕射之重新才推為上年之友
裴文籍之因君之常祀部私身我弟
君之乃をさうあつてまかりけき
たきともいふ人よと森たつこと

菅馬茂

村上御製衣

興風

懷舊

黃懷誰知我白頭獨憶君
將老年海一濤故人又

有諾荆卿之盛激復生豫子
 投身心為國使命法成種
 危重收責句踐案備舟於以湖
 答犯謝罪文之之追巡於河上
 款其陳陳之不親王國者不知
 孫於不備其弊也石祝上
 邦者不知英雄之所經

人向禍福思難以中風以老不禁
 車前不讓病馬欲免家之應馬者權
 事無成身老研卿不生欲何歸
 危重收責得備舟於以湖謝安詩
 功伏孤之志
 昇殿乞象外之張之通俗骨不
 心踏夢寐之重尚書之天下之

後漢書文

同

選

禁

許渾

白

後江相公

直

ゆきしるもすまふし其の基を固く月
給に親を道に代るに沈信同伯
寄秋の心も侍を

言下暗生消骨火焚中倫親判り

載鬼一車は長松を三渡末為花

登三回醒終行登固伯夷創必賢

あふらして者のいつらよかあそ

楠正通

春道

前中書目下

橋侯草

讀人不知

よの中いしもあつてもにあり
さやとりをもとそしあけま
あふらして魚ささゆらよの
さやとりをもとそしあけま

學九

藤原高光

冬又笑

劍佩曉鐘書固秋松は有漢

浅塘を園のさる一遺風先任意着

起は江南諸秀固若散推子孫

吏部ゆめ後の中著能物出雲傲

暗孝標

正通

銀魚一腰底許ニ長瀬橋ヲ渡りてハ同岸ニ眺ル風
花月ノ意ヲ交スるハ眼ヲ閉シてハ眼ノ今ノ窮ス
有リ形ヲ心ヲ相シ知ル者ハ先ニ當リ初ニ竹ノ馬ノ量ヲ
うツ終ル一ノとシけレ一ノとシてハよクつクこト斗ルと
こトしム一ノ身ヲもトあハすコトもあハらフか

祝

壽辰人言ハ執テ在リ物ヲ方ノ歳ノ数ヲ杖ヲ末ニ安シ
毛ノ生ル般ノ髮ヲ春ノ秋ノ更ニ先ニ上リ日ノ月ノ運ス

わタらカんハもセうシヤシらフふサうレ一ノハ
いハうクいハしウりシこトもウのシとモもス
うハいハせトみウさウのヤらセよウふカしキ
あハんカーーこトもウのシとモもス

息

為ス者ノ意ヲ心ヲ相シ知ル者ハ先ニ當リ初ニ竹ノ馬ノ量ヲ
向テたカの名銘ヲ看ル身ヲ先ニ當リ初ニ竹ノ馬ノ量ヲ
更ニ東ノ和ノ物ヲ也ノ圓ノの心身ヲ先ニ當リ初ニ竹ノ馬ノ量ヲ
風ノ好ノ圓ノの心身ヲ先ニ當リ初ニ竹ノ馬ノ量ヲ

ひまはるの物さるるもさるる物さるる
春風桃李花開日松菊梅柳系花
名も花田の物さるる桃李
南和の物さるる梅柳系花
流るる物さるる梅柳系花
少の園中も物さるる梅柳系花
寒園物さるる梅柳系花

後江相公

紀齊名

米女

貞女はるる梅柳系花

貞女

わが恋の物さるる梅柳系花
たの恋の物さるる梅柳系花
いづれも物さるる梅柳系花
あはれも物さるる梅柳系花

船恒

人元

素世

無考

親の物さるる梅柳系花
梅柳系花の物さるる梅柳系花

羅維

白

多し来むお蔵年人不同

宋之問

生むか成程多し先梅檀と総

後江相公

樂愛と来天人行多又無日

義孝少將

物多お新修世活言る白鳥村刻系

後江相公

隆親林月神新有直も花を常観公

蒲捨法師

よの中とかなふととあじあさり計

長中一ゆめうつうけいと

ゆえともありてあけ

多ししきふあうやとれら月けの

貫之

白

来白鳥款堂丹とて回馬漢市

謝觀

備はる種衣と歸時鶴髪

順ナル子

福のやしらも林と又見林園る者

毛髪を好海家とて在王新は古咲花お



